

Ⅲ 令和5年度 教育総務部の目標

1 組織のビジョン

学び合い、高め合い、チャレンジする組織

※ 組織のビジョンは、「おおた教育ビジョン」のテーマ「豊かな人間性をはぐくみ、未来を創る力を育てる」の4つのビジョンを実現するための教育総務部が目指す姿です。教育長の下、“チーム教育”として一丸となって取り組みます。

2 目標

令和5年度、教育総務部は、学び合い、高め合い、チャレンジする組織風土をつくりながら、「おおた教育ビジョン」（令和元年度～5年度）の実現を目指します。重点課題として、以下の15項目に取り組みます。

重点課題
(1) 現ビジョンの成果と課題を検証し、時代変化を踏まえ、今後の教育施策の道筋を示す新ビジョン（令和6年度～10年度）を策定する。
(2) 第2期大田区教育ICT化推進計画（令和5年3月策定）に基づき、個別最適な学びや協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を進める。
(3) 令和7年度の区独自教科「おおたの未来づくり」新設に向けて、地域の教育力を最大限に生かしたSTEAM教育を推進する。
(4) おおたグローバルコミュニケーションを新設し、大田区ならではの国際教育を推進し、グローバル人材を育成する。
(5) 不登校対策アクションプランを実践するとともに、未来を先取りした不登校特例校の設置を検討し、目指す姿を描く。
(6) 一人ひとりの児童・生徒のニーズに応じた特別支援教育の充実に向け、あり方を検討する。
(7) 地域力を活かしたコミュニティ・スクールを推進し、地域とともにある学校づくりを進める。
(8) ヤングケアラーの実態把握を行い、関係部局等と連携して適切な支援につなげる。
(9) 一人1台のタブレット端末を活用した児童・生徒との相談・コミュニケーション・調査機能を整備する。
(10) 教育データを利活用した授業改善を進め、学力等の向上につなげる。
(11) 教員が子どもたち一人ひとりに寄り添い、効果的で質の高い教育活動を実施するための学校における働き方改革を推進する。
(12) 学校のコンセプトを改築基本構想・計画に反映させるとともに、工期短縮等新たな手法を検討しながら計画的に学校の改築・増築を進める。
(13) 段階的かつ確実に小学校の35人学級を実現する。
(14) 学童保育と放課後子ども教室の一体化を検討する。
(15) 人生100年時代の生涯学習を支える図書館機能を充実させる。

3 目標達成に向けた視点

(1) 現状の正しい把握・検証

- 学校をはじめ、教育活動の現場に積極的に足を運び、現状を正しく把握した上で、子どもたち本位の課題解決につなげましょう。
- 「おおた教育ビジョン」推進におけるこれまでの取組の成果、現状と課題をしっかりと検証しましょう。
- 他自治体との比較、先進事例との比較などを手掛かりに、区の現在の立ち位置（強みや進んでいるところ、改善が必要などころはどこか）を明らかにしましょう。

(2) 事務事業の改善、優れた手法の追求

- 時代変化とともに、これまで最善であった手法も、状況の変化で必ず改善の余地が生まれます。前例踏襲的な態度を払拭し、現状を批判的に見る視点も確保し、創造力を発揮して事務事業の改善に取り組みましょう。
- 各分野の最新の知見を踏まえ、先進事例における優れた手法、新たな手法を研究、追求し、大田区の実情に合わせて積極的に取り入れましょう。
- 業務の効率化、区民サービスの向上に向けて、事務事業のDX化にチャレンジしましょう。

(3) 情報の共有化による問題解決能力の向上

- 教育総務部の仕事は、課や係が異なっても相互に密接に関連しています。基本的な声かけのほか、グループウェア等を活用し、できる限り即時の情報提供、情報の共有化を心がけましょう。
- 担当を超えて活発な議論を行いましょう。

(4) 部局間連携の強化と地域力を活かした事業の推進

- 所管する立場にとらわれることなく大田区全体を視野に入れ、部局間の連携を強化するとともに、地域力を活かした効果的、効率的な事業運営を行いましょう。

(5) 積極的な情報収集と発信

- 学校、教育関係団体等に、積極的に足を運んで情報収集と発信をしまししょう。窓口利用者等からの声にも耳を傾け、情報を蓄積しまししょう。
- 連携協力の効果を高めるため、区役所内部においても積極的な情報収集と発信を心がけまししょう。
- 区民やマスコミ、議会等に向け、積極的に情報を発信しまししょう。
- 教職員、児童・生徒、保護者との連絡やアンケート、調査等においては、グーグルフォームの活用など、一人1台タブレット端末環境を十分に活用しまししょう。その際、情報格差対策も講じまししょう。
※グーグルフォーム…グーグル社の提供する簡易作成できる電子アンケートの一種で、すでに区内の学校においても活用されつつある。

(6) 風通しの良い職場づくり、スマートワーク、リフレッシュの奨励

- 率直に話し合える風通しの良い職場をつくりまししょう。
- 切磋琢磨して、お互いに学び合い、成長し合える職場をつくりまししょう。
- 元気に働き、より良い仕事をするためには、ストレス解消やリフレッシュが欠かせません。計画的に仕事を進めるとともに、事務改善や業務の見直しを進め、超過勤務の偏在を解消し、「健康第一」と「お互い様の精神」で休暇を取らまししょう。